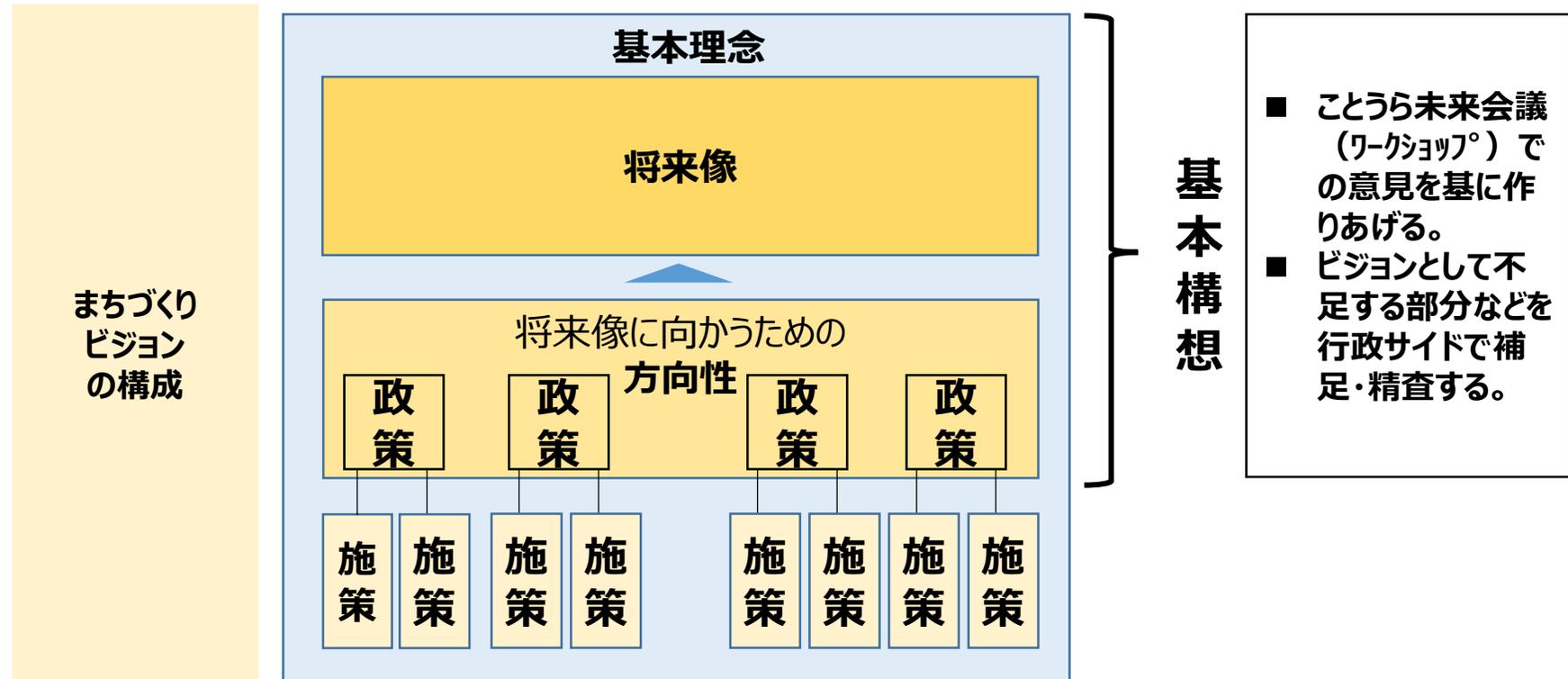


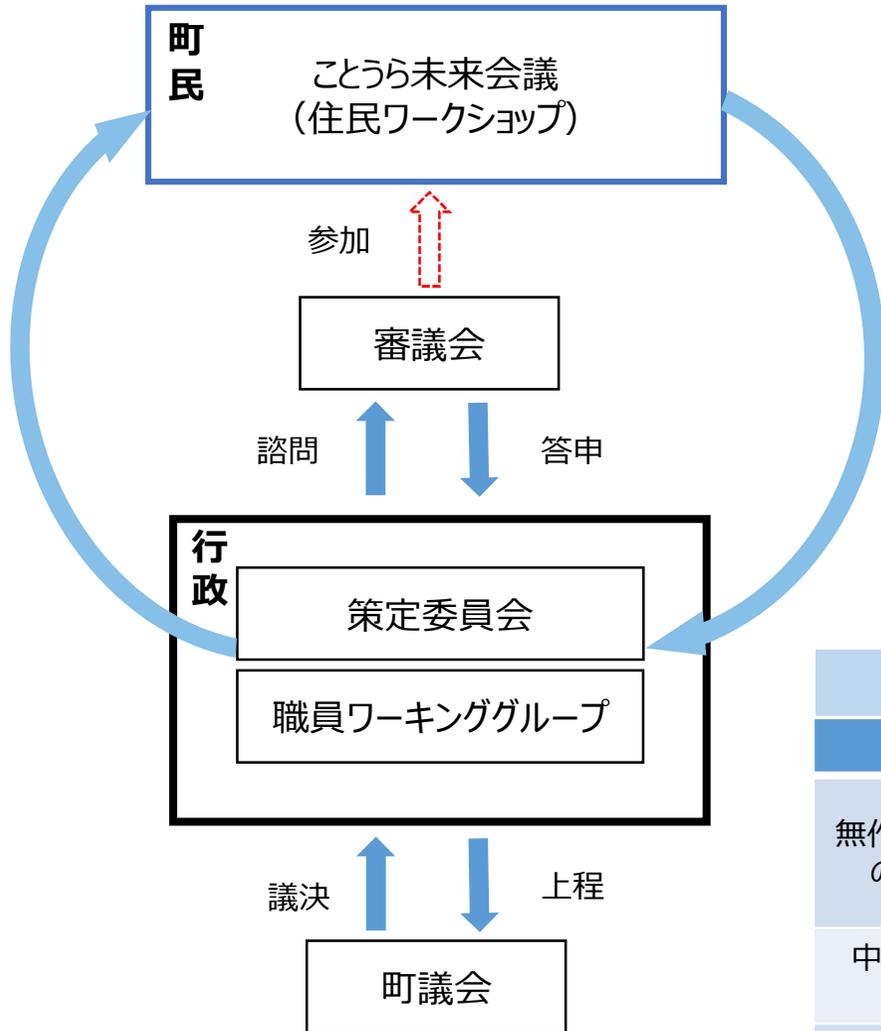
新まちづくりビジョン（第3次琴浦町総合計画）

期間	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度～13年度（10年間）
位置づけ	<ul style="list-style-type: none"> まちづくりの方向性を示す計画であり、議決事項 目指すまちづくりの姿（将来像）を示し、その道筋（方向性）を町民と共有
策定方針	<ul style="list-style-type: none"> 住民意見を起点として「まちづくりビジョン」を作成 住民手づくりの「まちづくりビジョン」に



新まちづくりビジョンの策定②

【体制イメージ】



【各役割】

■ ことうら未来会議（無作為抽出の住民ワークショップ）

- 理想のまちについて意見交換する。
- まちの強みと弱みから琴浦町がいま取り組むべきことを話し合う。

■ 職員ワーキンググループ（各課の職員）

- ことうら未来会議に参加し、ファシリテーターを務める。
- ことうら未来会議での住民意見を基に原案づくりの作業を行う。

■ 策定委員会（管理職による策定チーム）

- まちづくりビジョンを策定する。
- 職員ワーキンググループと連携をとり、ビジョンの最終的な検討、精査を行う。

■ 審議会（有識者および公募）

- まちづくりビジョン案について、町長より諮問を受ける。
- まちづくりビジョン案について、内容を審議し、その結果を答申する。
- 審議会委員も、未来会議に参加していただき、ともに作る計画に。

ことうら未来会議の参加者

	1日目	2日目	<ul style="list-style-type: none"> • 4人1組の6グループで話し合う • 各テーブルには鳥大生（書記）＋職員（ファシリテーター）を配置 • 10代～70代までの幅広い年代がまんべんなく参加
無作為抽出の町民	15人 30代3人、40代2人 50代5人、60代3人 70代2人	15人 30代3人、40代3人 50代3人、60代3人 70代3人	
中央育英高校	9人 生徒8人、先生1人	9人 生徒8人、先生1人	
合計	24人	24人	
男女別	男13女11	男11女13	

「ことうら未来会議」でつくる新まちづくりビジョンの基本構想（理念・将来像・方向性）

1日目

目的	10年後の理想の琴浦町を「〇〇な町」で示す。
日時	8月21日（土） 13:30～16:00
場所	まなびタウン多目的ホール
内容	<ul style="list-style-type: none"> ① 4名1組となり、参加者がイメージする10年後の理想の琴浦町について、政策分野は問わず、参加者が「こんな町に住みたい」という理想を話します。 ② 対話から出たアイデアを分野ごとに集約し、分野ごとに「〇〇な町」といった見出しを付けます。※SGDsの17の目標を活用。 ③ 各グループで出た見出しを全体で発表します。

まちの将来像

2日目

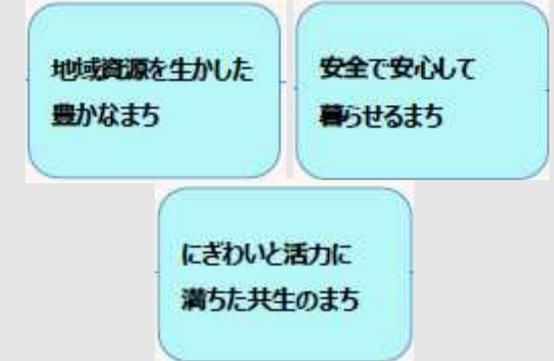
目的	1日目で出た「理想の町」を踏まえ、現状を理想に近づけるために10年後のためにいまだできること・取り組むべきことを考え、「これからのまちづくりに必要な視点」を示す。
日時	9月5日（日） 13:30～16:00
場所	まなびタウン多目的ホール
内容	<ul style="list-style-type: none"> ① 4名1組となり、参加者が思う琴浦町の長所・短所を書き出します。 ② 各長所と短所の10年後をイメージし、維持されているのか、改善されているのか、悪化しているのかを話します。 ③ ②で出た意見から逆算し、そのためにいま私たちのまちが取り組むべきことについて対話し、分野ごとに見出しを付けます。 ④ 各グループで出た見出しを「これからのまちづくりに必要な視点」として全体で発表します。

まちの方向性

（2日間を通して） 「新まちづくりビジョン」の理念

<第2次総合計画の例>

■ 理念



■ 将来像

みんなが輝く住みよいまち
～ひと・自然・歴史が紡ぐコトウライフ～

■ 方向性

- ① 地域の宝である子どもを産み育てやすいまちづくり
- ② 安定した就労環境の整備と魅力あるしごとづくり
- ③ ふるさとの魅了を誇り、生き生きと輝くひとづくり
- ④ だれもが健康で心豊かに暮らせるまちづくり
- ⑤ 地域とつながる明るい行政サービス

年間スケジュール

